



鰻魚？



逃げ上手の若君

第24話 不可思議1334 まつ い ゆうせい 松井優征

我失去神力
這件事！

★少主人暗中執行
山賴重復活計劃！！

千萬
要對大家
保密！

禁營利禁請漫禁盜轉

漫成佳台台

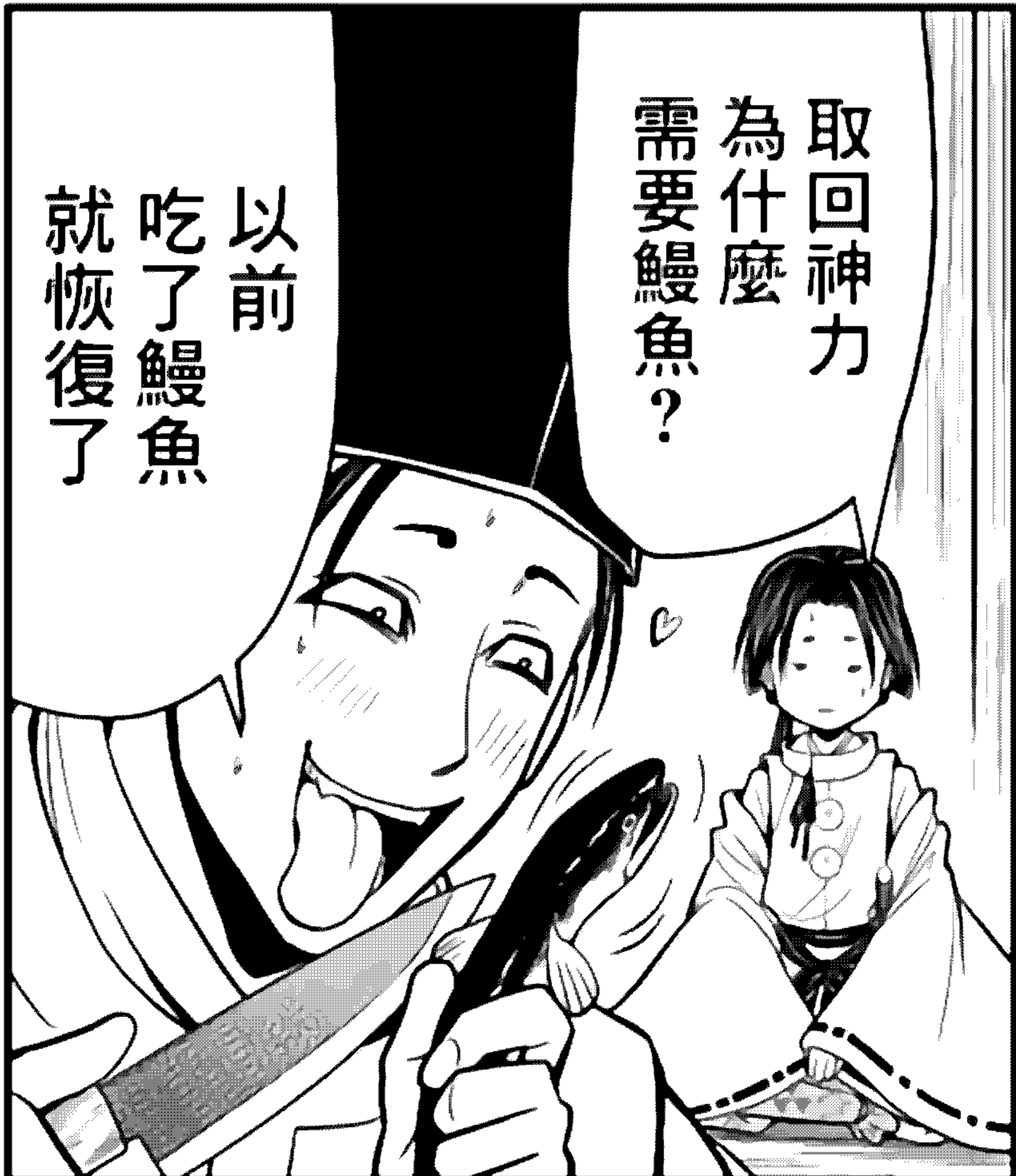
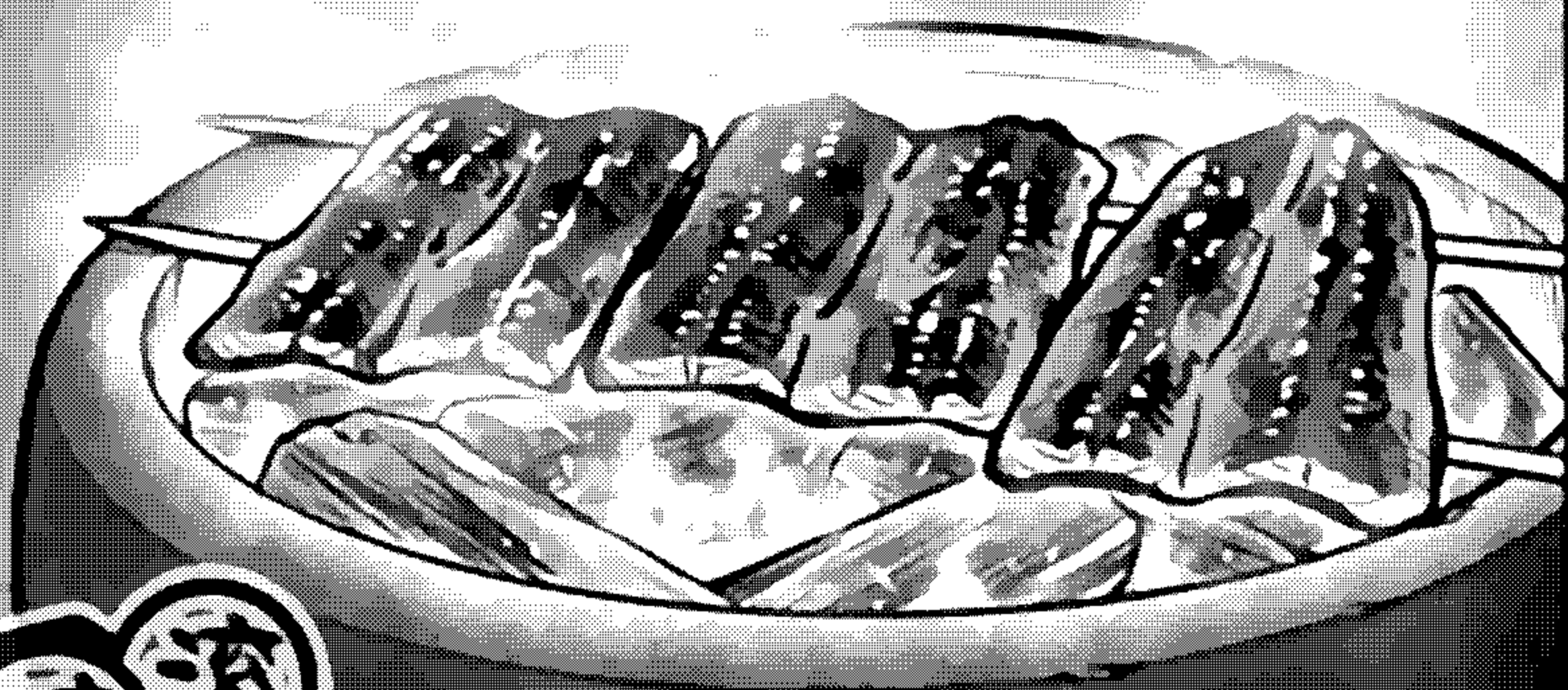
@

取回神力
為什麼
需要鰻魚？

以前
吃了鰻魚
就恢復了

恢復神力的契機
各種各樣

只能參照
過去的經驗
一一嘗試了



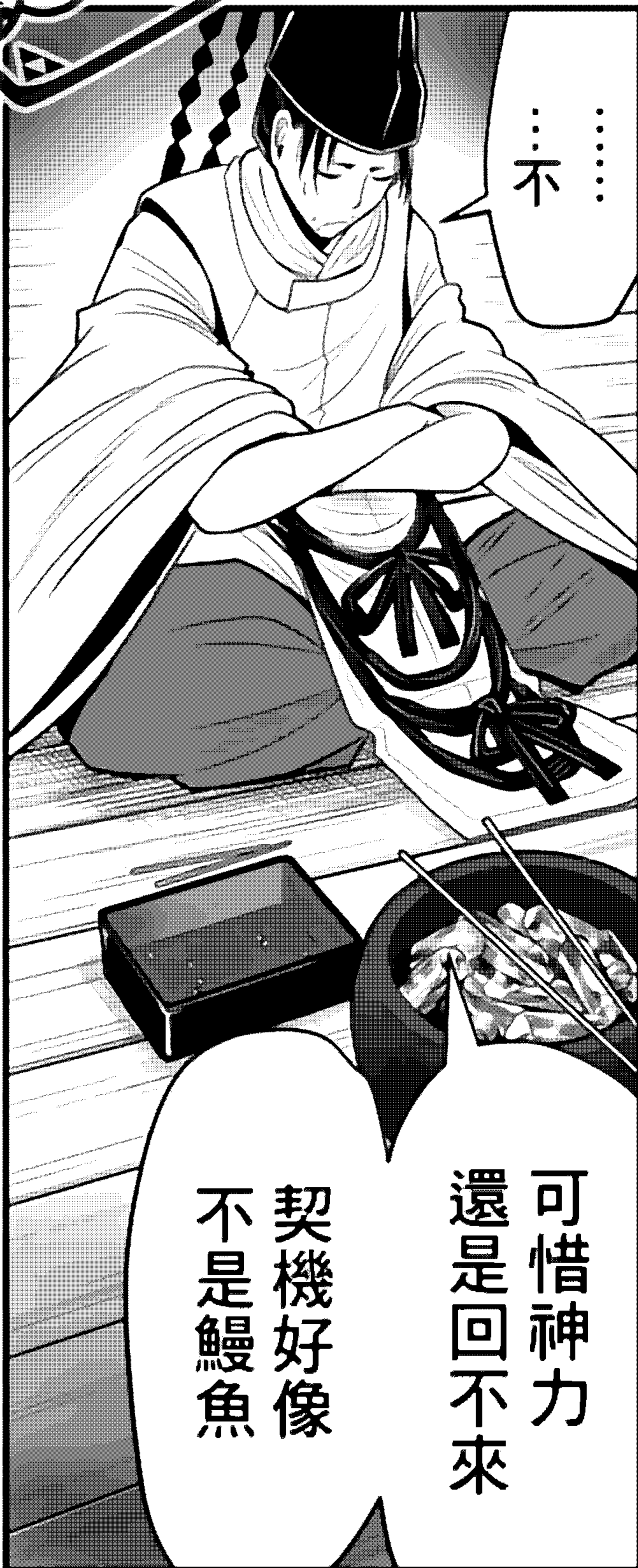
鰻魚可是
諏訪名產

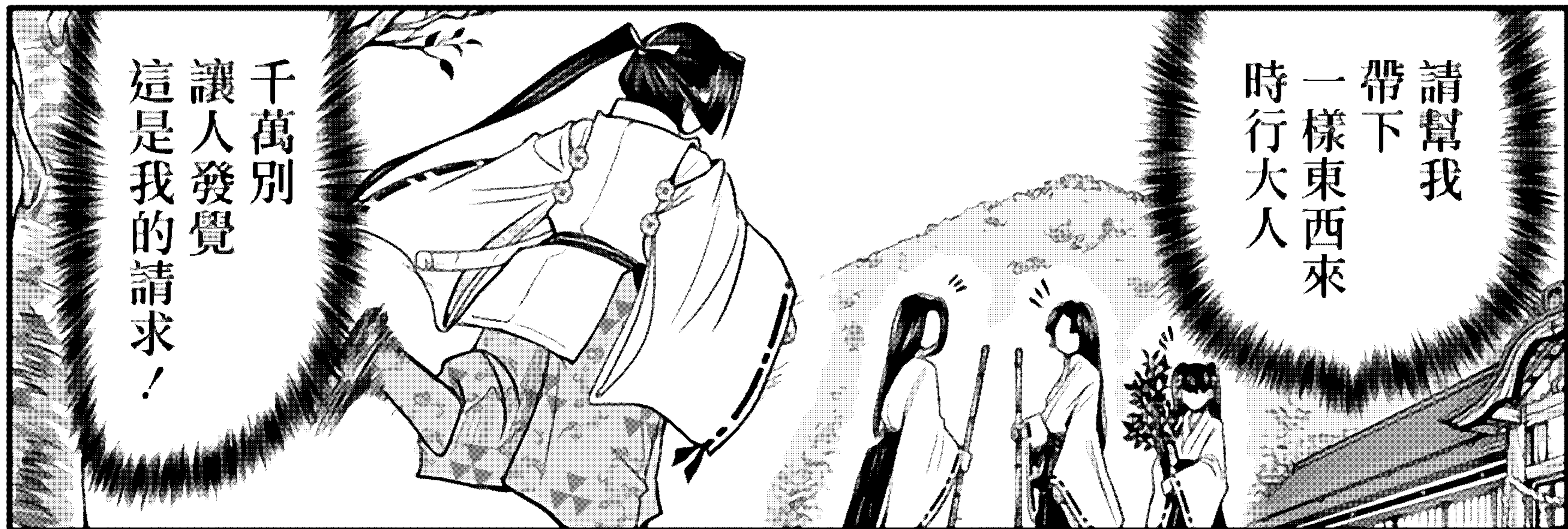
冬季
脂肪充足
肉質柔軟

吃了
渾身充滿
力量……

……
不……

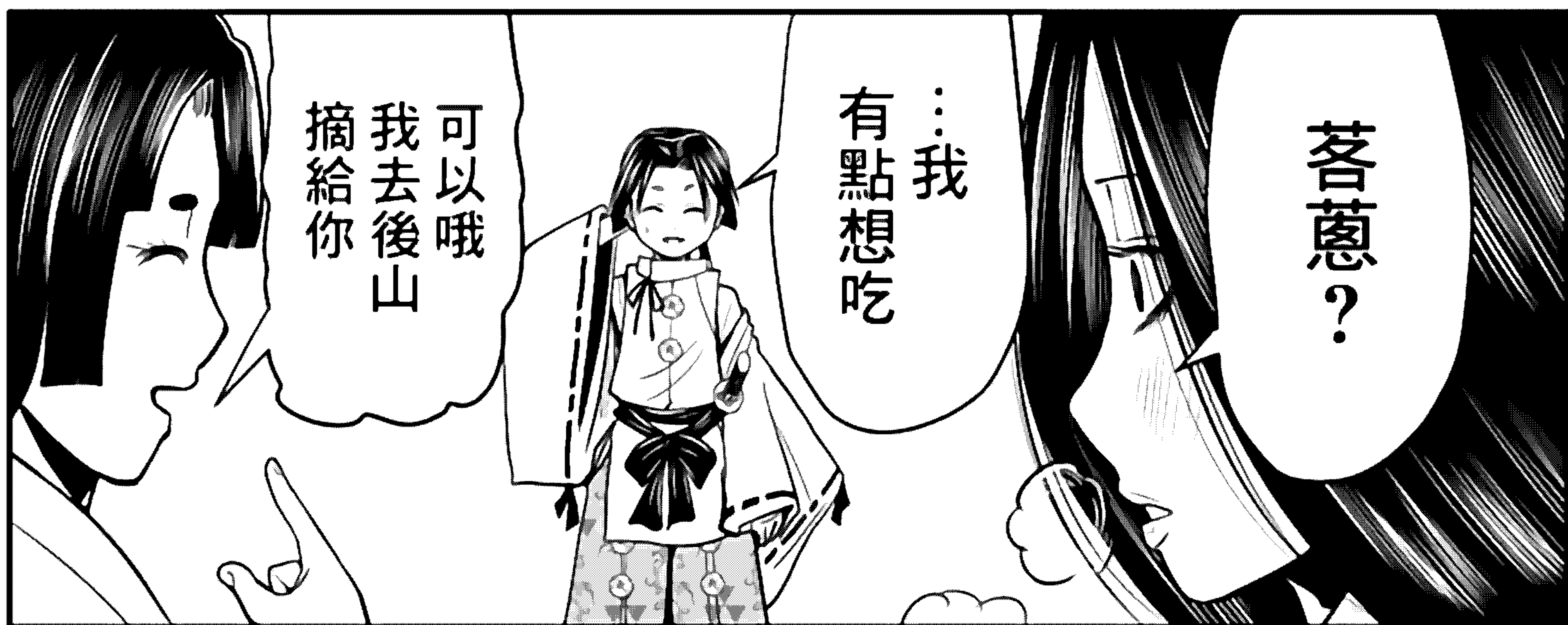
可惜神力
還是回不來
契機好像
不是鰻魚





請幫我
帶下
一樣東西來
時行大人

千萬別
讓人發覺
這是我的請求！



茗蔥？

…我
有點想吃

可以哦
我去後山
摘給你



這是
在山中的
修行者
愛吃的野菜

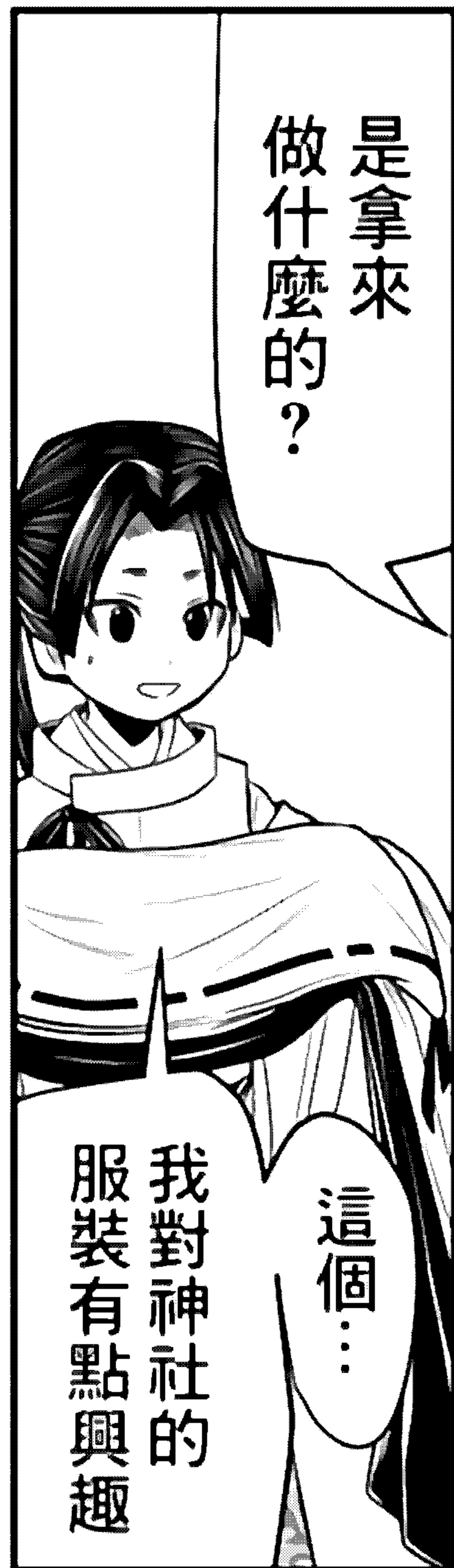
靠它
刺鼻的香氣
喚醒驅魔之力

…可惜
也不是這個

翻譯 我不做人了

@

漫成漫合會



神道中
不論男女
都不可或缺

且巫女的職責
格外重要

此事
要對巫女們
保密：

所以我們就用
巫女形態的人偶
舉行恢復神力的
儀式

…完成了

去拿給
賴重殿下吧

合達成

…有點嚇人誒

是啊

吃了一大堆
助長精力的
食物

做了等身
大小的
巫女人偶

繩子絕對是
用來綁縛的



少主……

性癖
真可怕



冷靜

就算主君
是大變態
對各種的忠義
也沒有影響



難不成……

時行大人
才八歲就
踏入了那麼
高深的領域

你不懂啊
盛高

那種少爺
更容易
長成變態啊



我作為
家臣也會
把武藝和變態
磨煉到極致！

……是啊
說得沒錯

少主所做的
一切都是為了
振興鎌倉幕府
不論多麼
變態的幕府
都無所謂！



怎麼啦
殺氣騰騰的！

你還有心情
繼續烤鰻魚！



家臣們
對我產生了
天大的誤會！

就因為我私下裡
莫名其妙地
為你跑腿！



賴重啊啊



這樣不好嗎

有點
難以捉摸的
君主才更具
謎之威嚴

你被
嫌棄了嗎！



快跟我來！

跟大家說清楚
解除誤會！！

誰管你的神力
是不是秘密！

哎
冷靜冷靜！



再拜托你
最後
一件事！

要是還不行
我就放棄



從這裡徒步大約
一里地

就能達到
諏訪大社的神體
守矢山

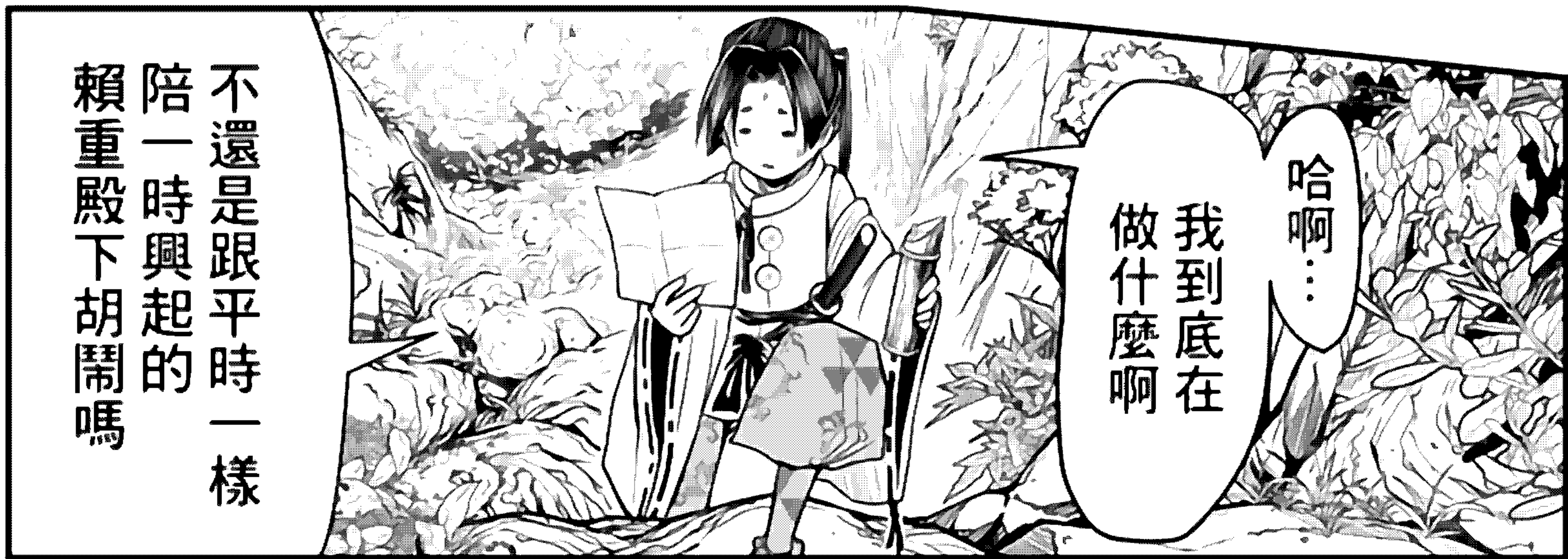
山間有
神聖的溪水
麻煩你取點回來



喝了那個
大概立馬
就能恢復

那你一開始
就該告訴我啊！

因為我想吃
鰻魚和茗蔥
啊……



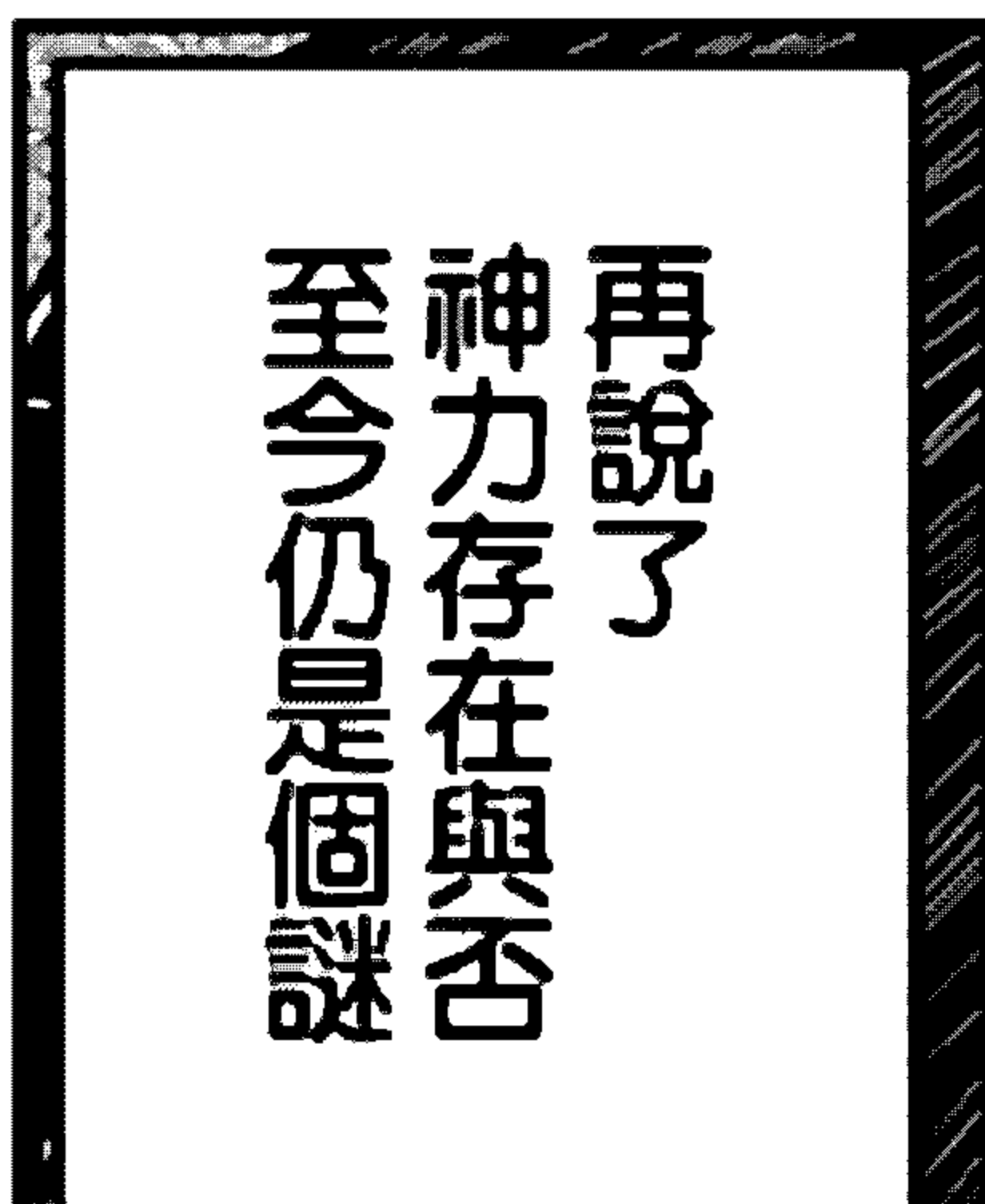
哈哈……

我到底在
做什麼啊

不還是跟平時一樣
陪一時興起的
賴重殿下胡鬧嗎



他之前
展現的力量
也可能
都是巧合

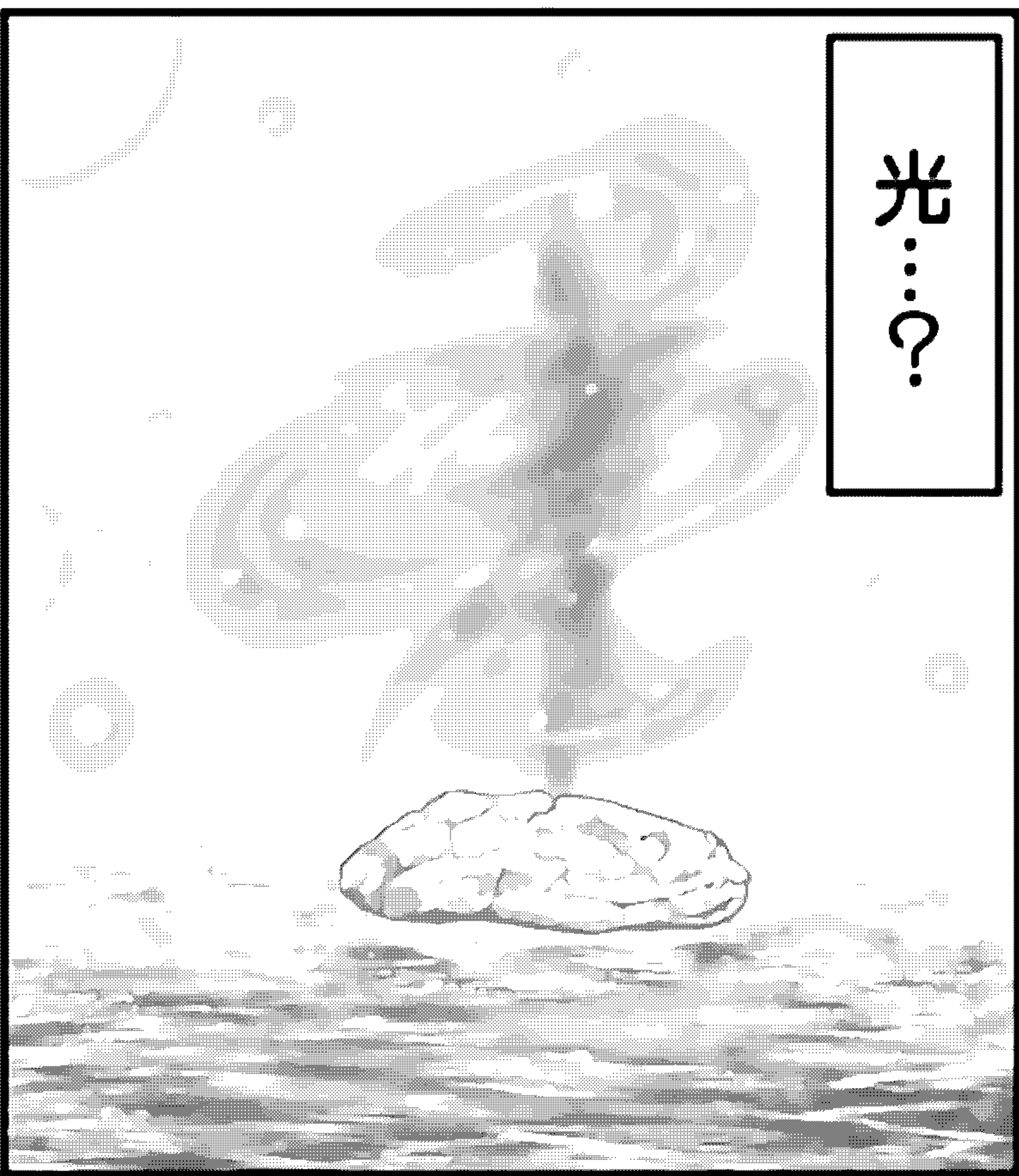


再說了
神力存在與否
至今仍是個謎

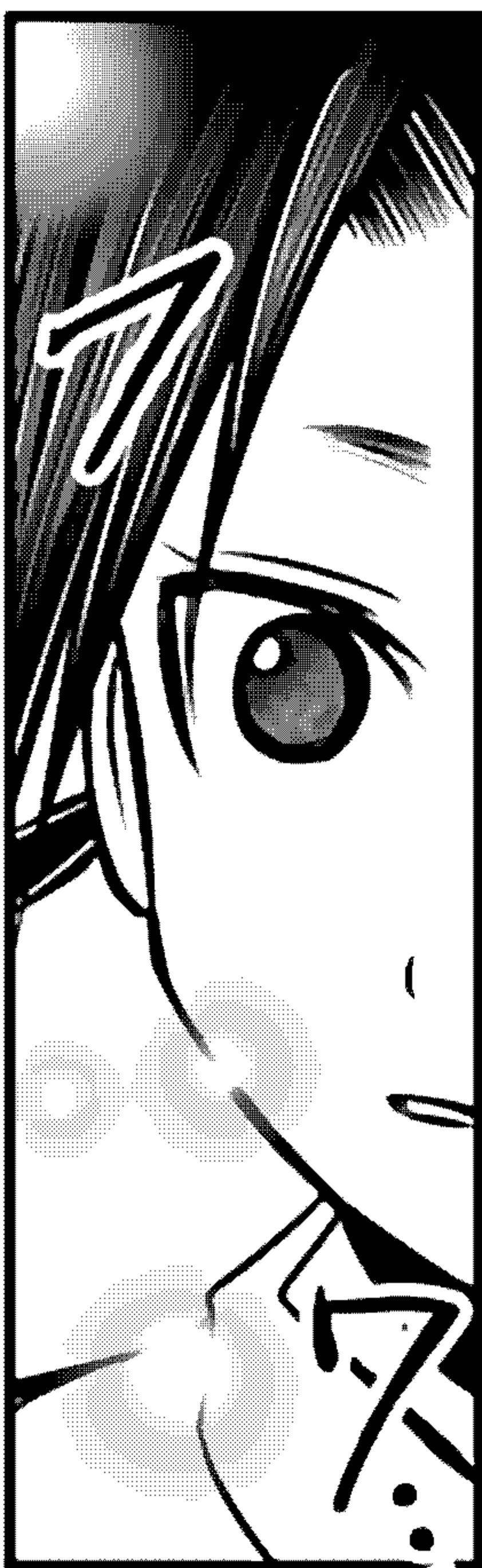


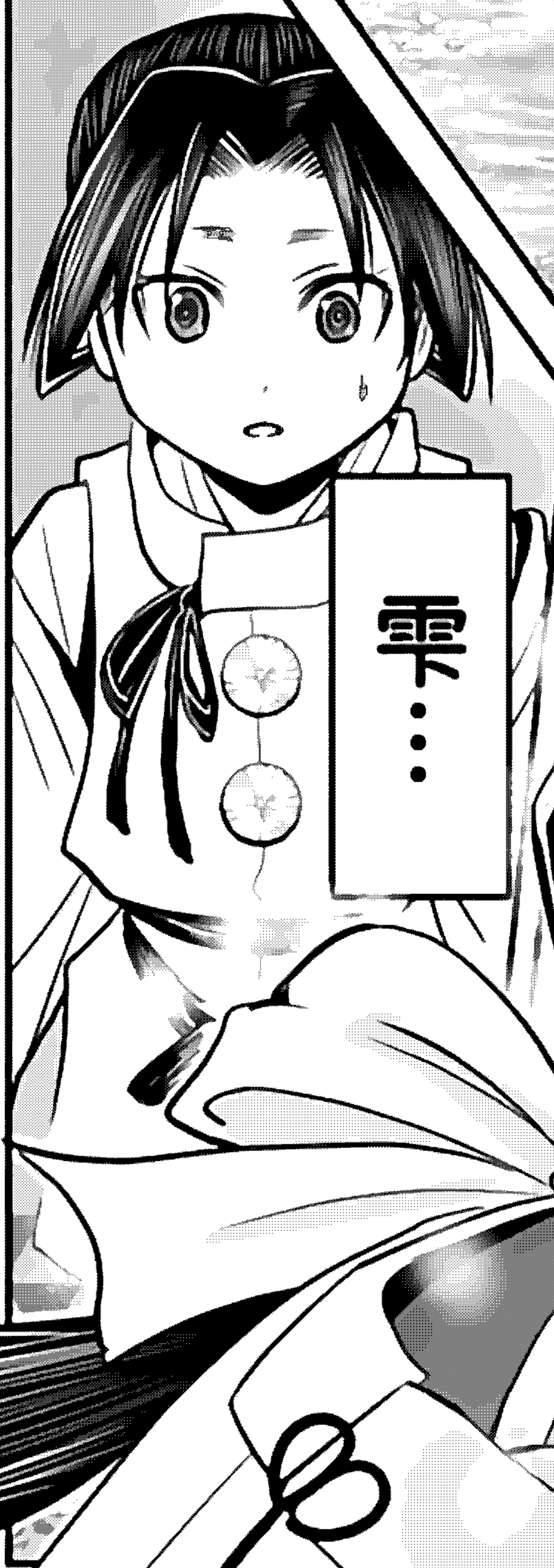
既然能率領
那麼精悍的
軍隊

也沒必要倚仗
飄忽不定的
力量吧



光……？





零...





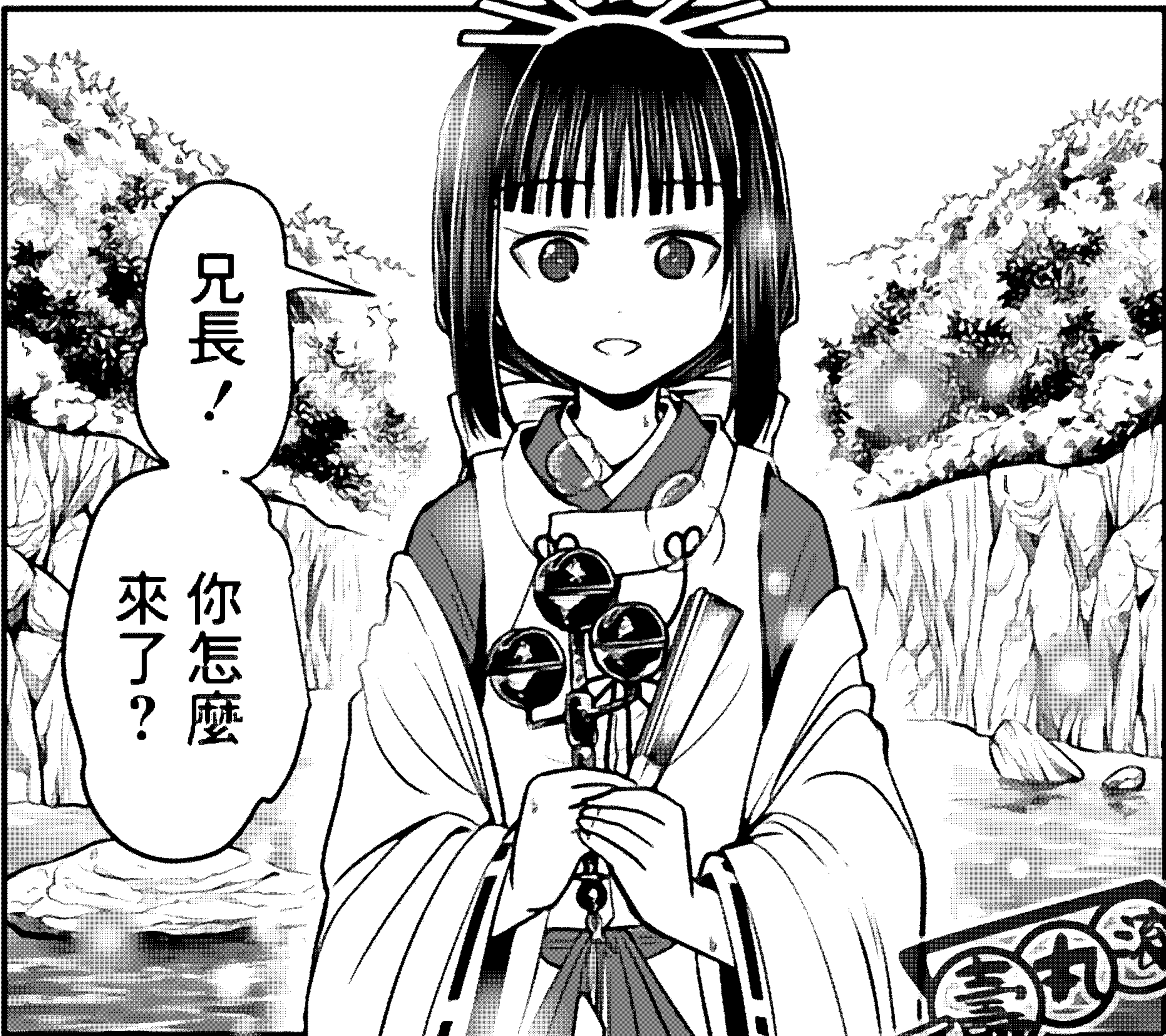
那是……

敬奉
神明的
神樂舞

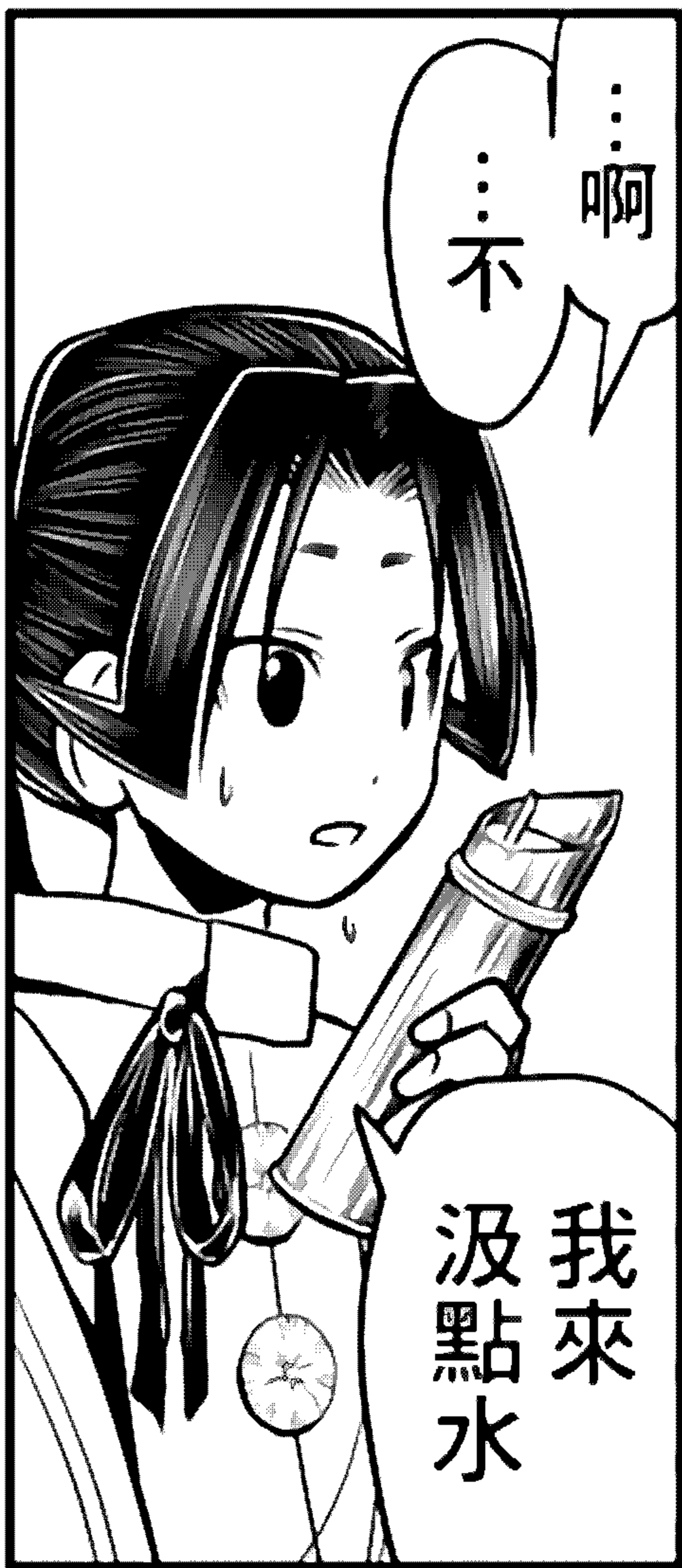


錯覺嗎……？

看起來像
在和無數的光點
嬉戲一樣

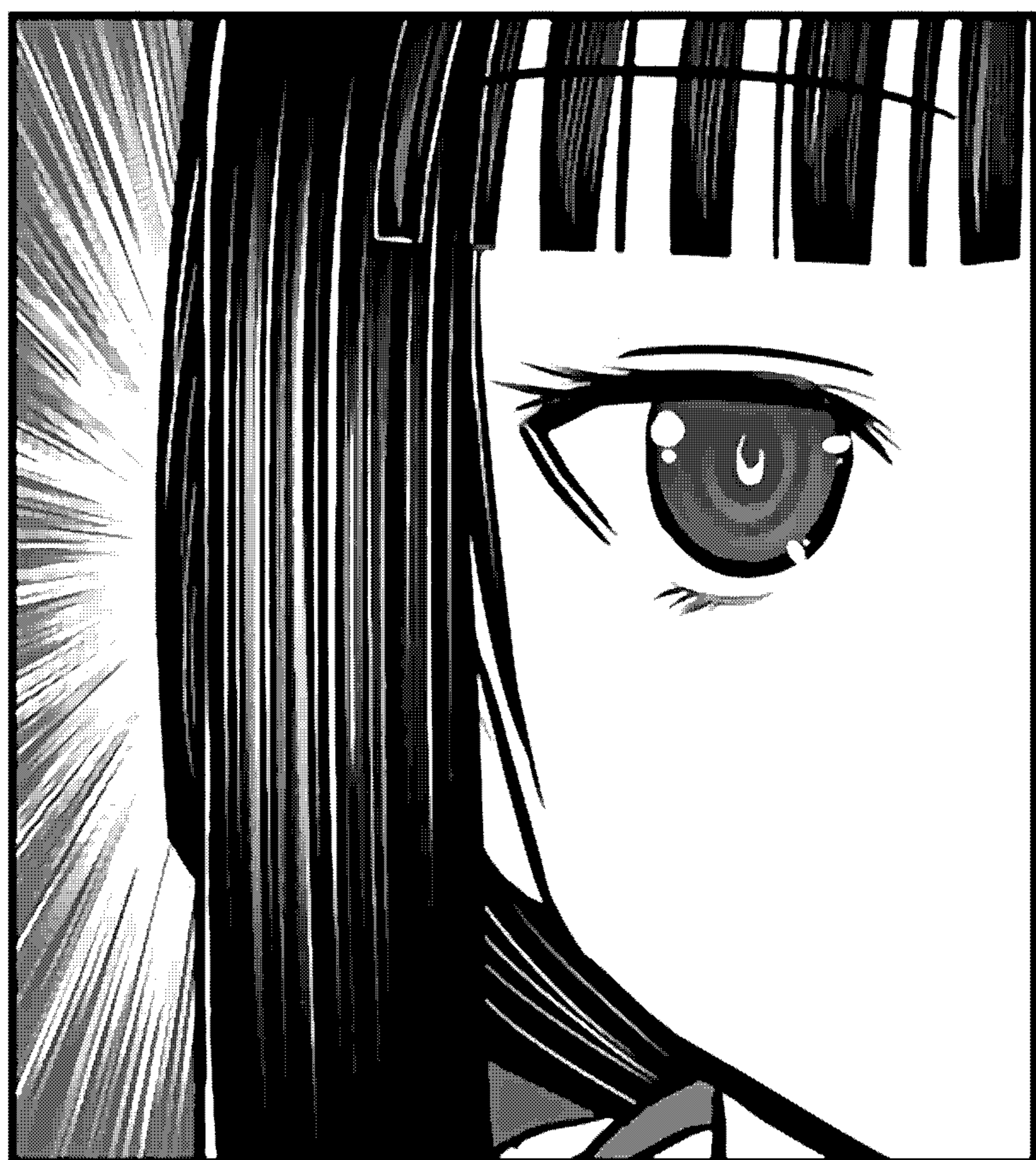


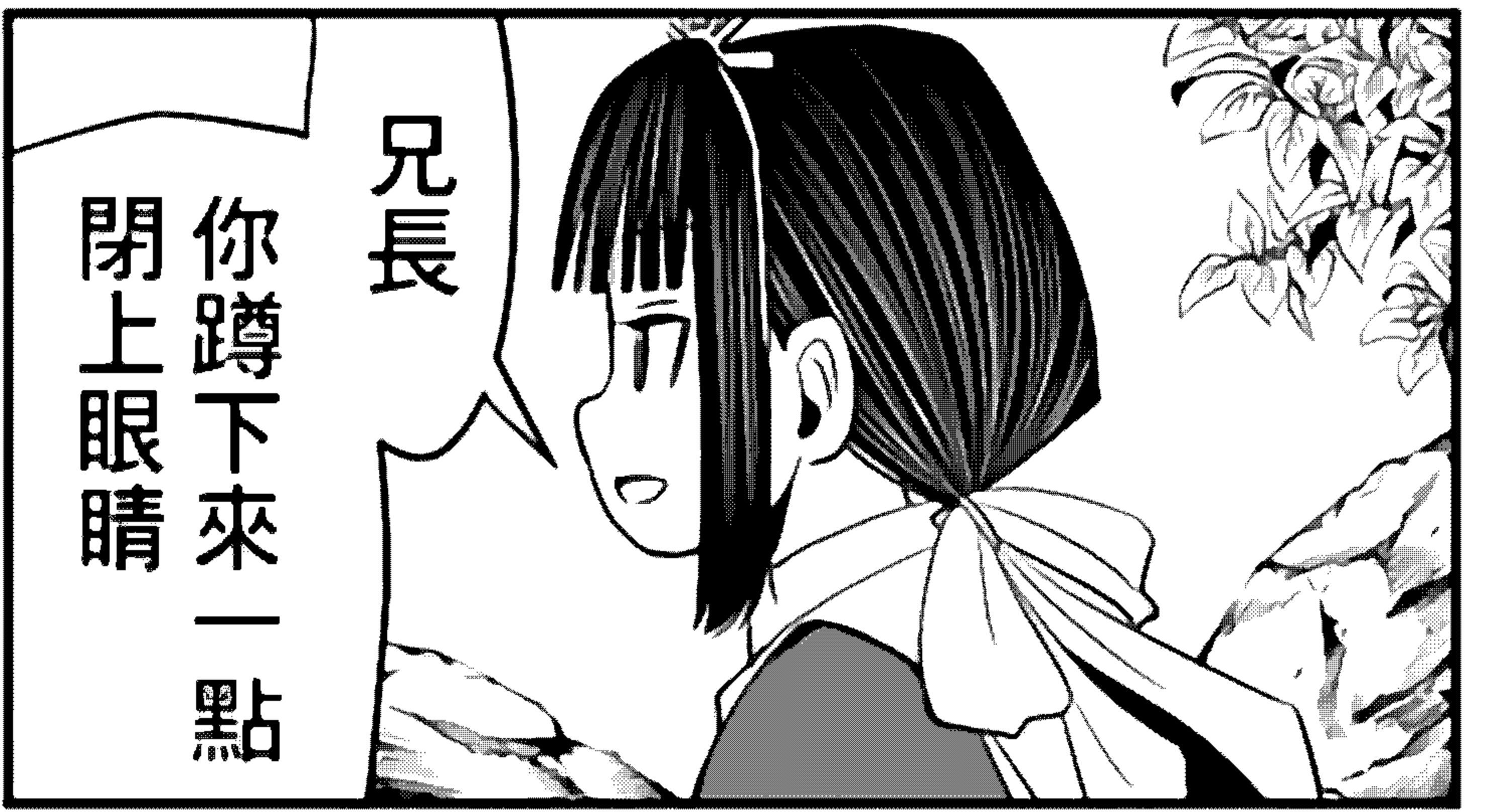
兄長！
你怎麼
來了？



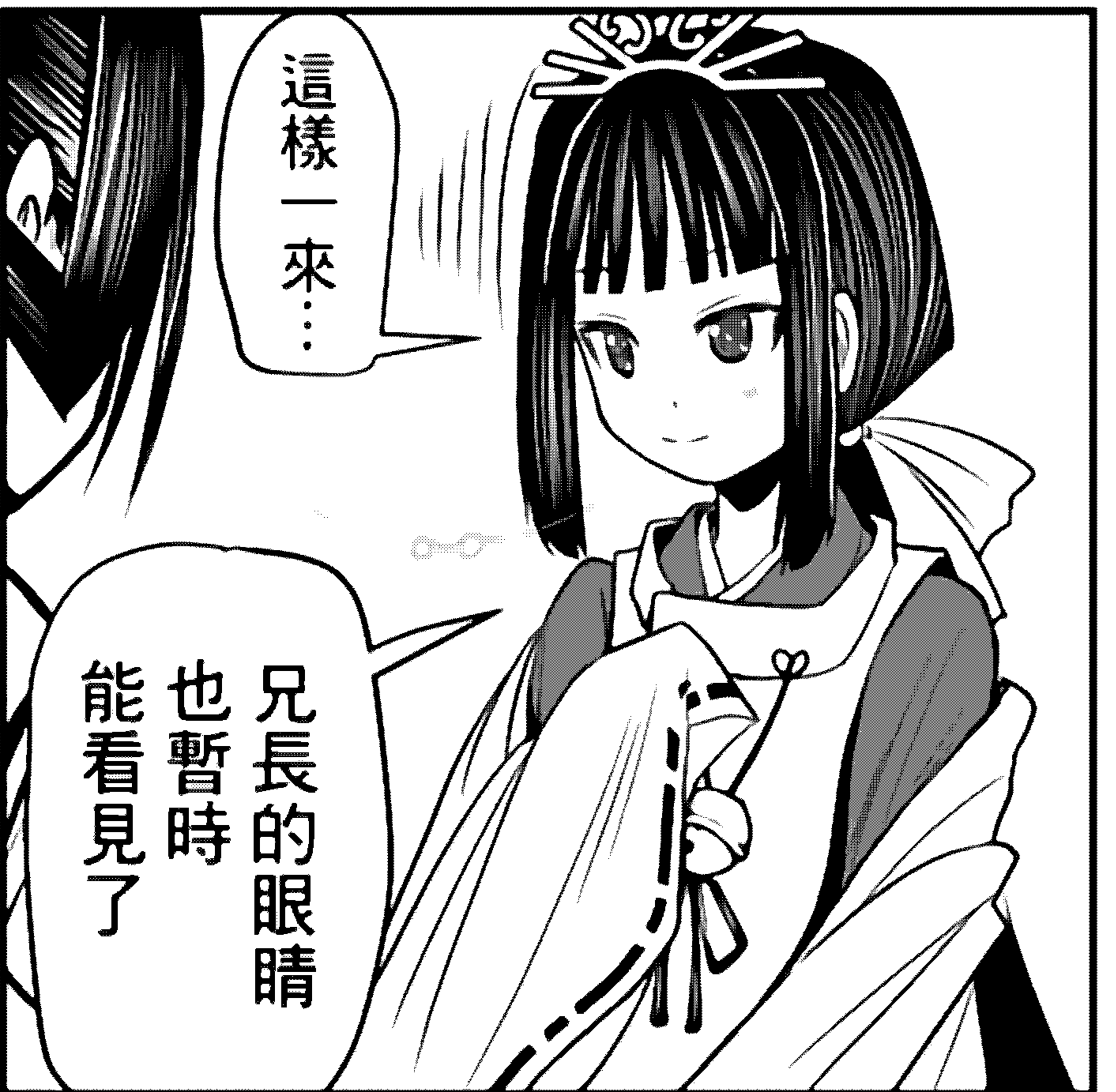
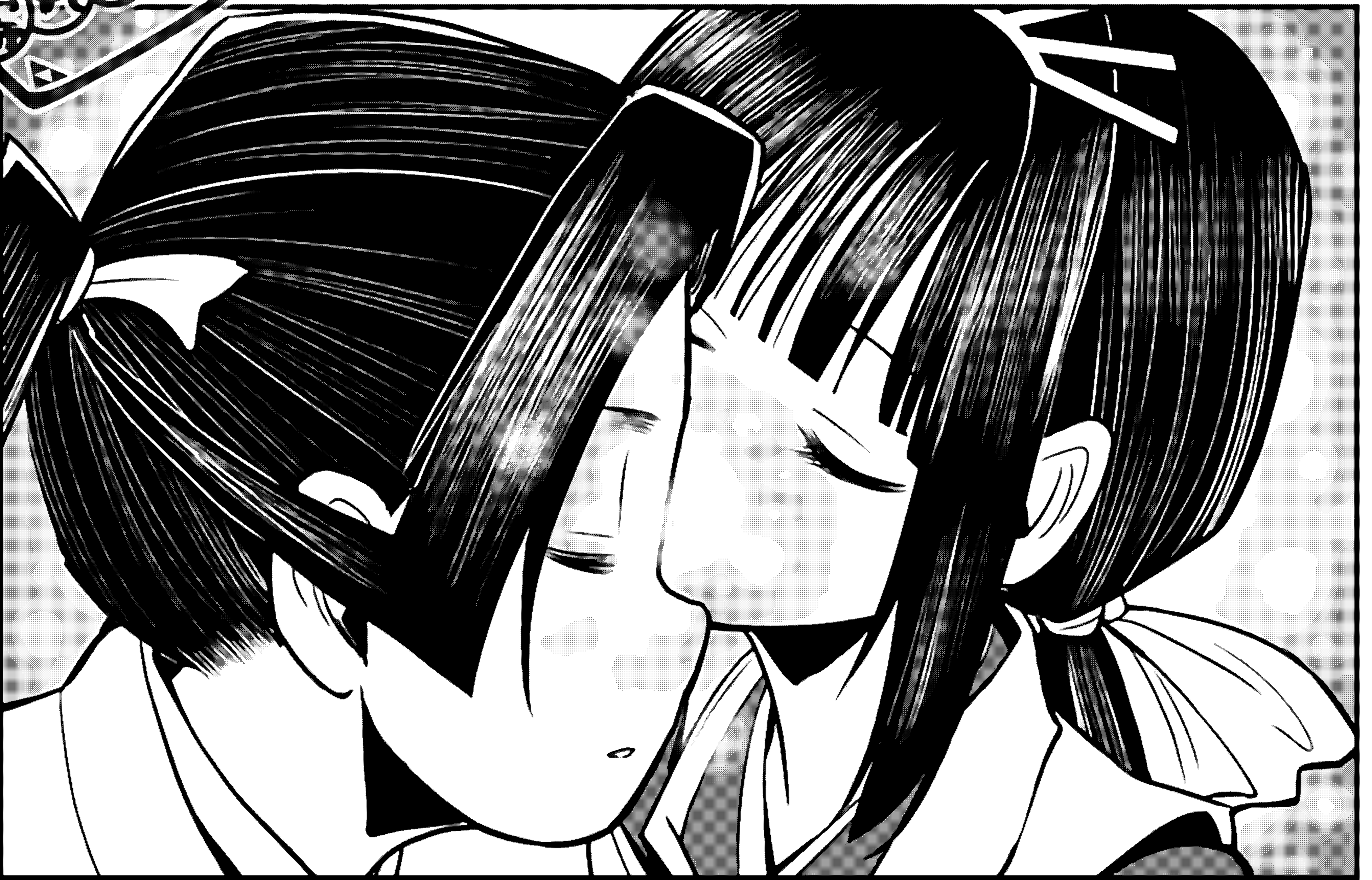
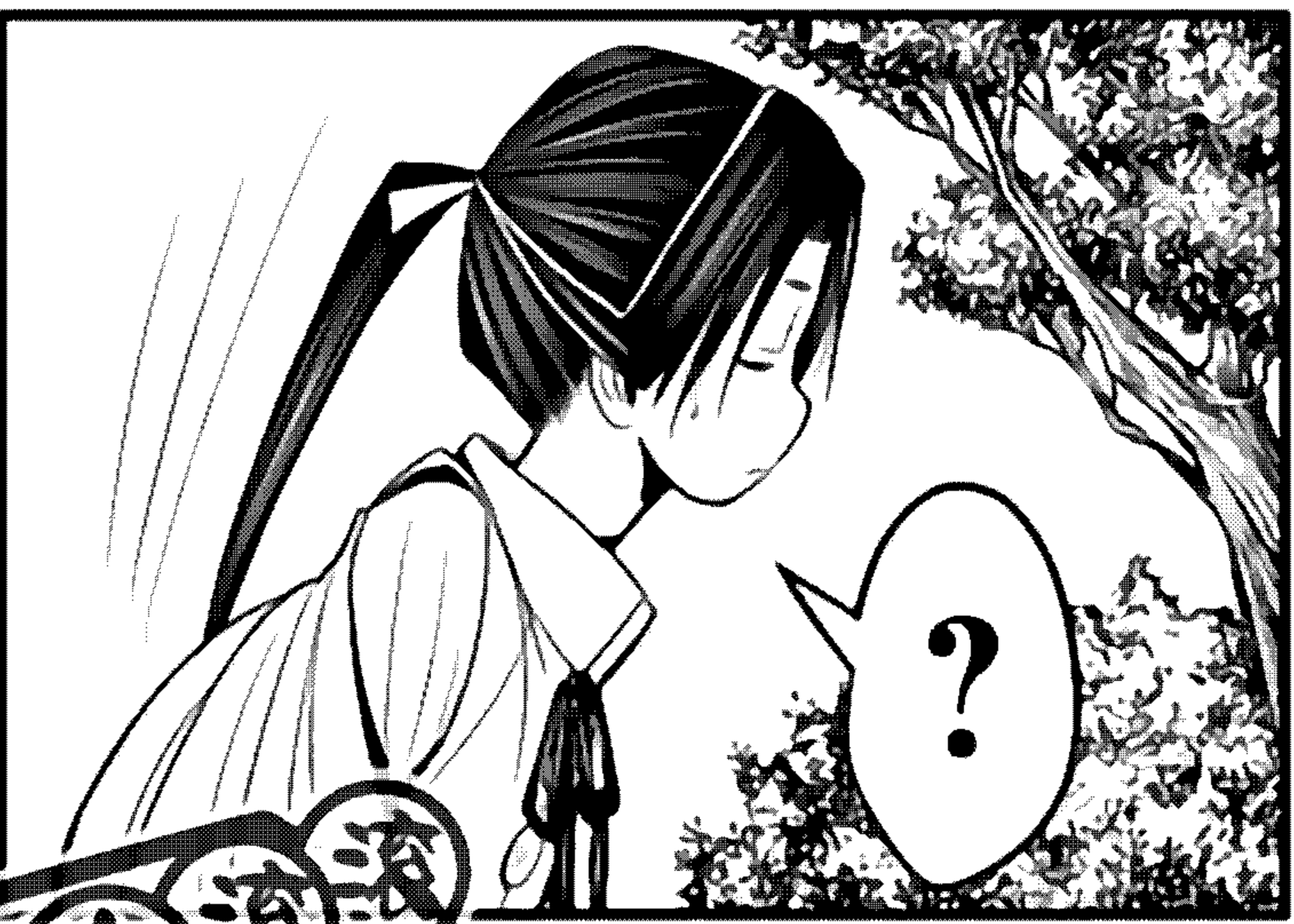
我來
汲點水

……啊
……不





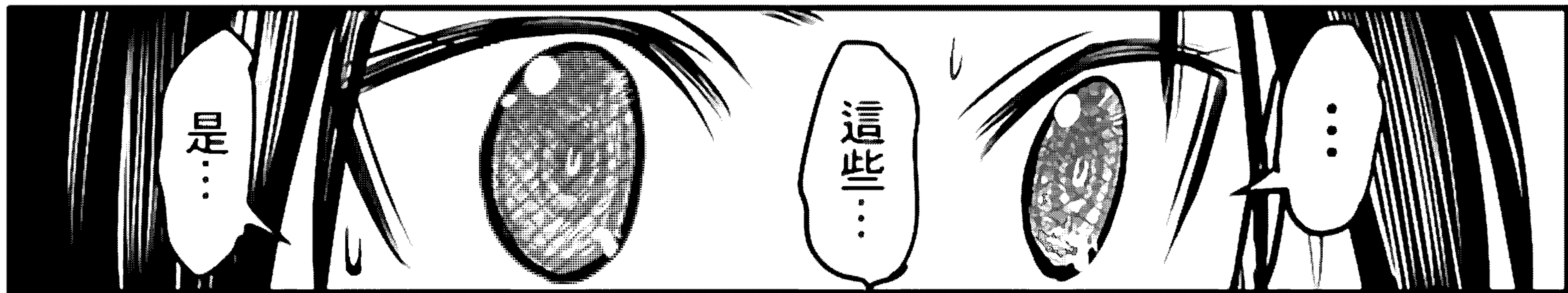
你蹲下來一點
閉上眼睛



兄長的眼睛
也暫時
能看見了







這個時代

是人與奇異事物
共存的
最後一個時代

「地震前曾目睹
妖怪現身」

「天狗在鎮上
飛來飛去」

這些說法

在官方文獻中
被記錄為
「事實」

蒙古人入侵時
讓元軍陷落的
「神風」啊……

那是
諏訪大社靠祈禱
讓它吹起的

就連這些事
他們也堅稱是
自己的「功勞」

許多寺院和
神社也的確
受到了封賞

諏訪大社相關人員

S·Y氏

當時對這個
國家而言

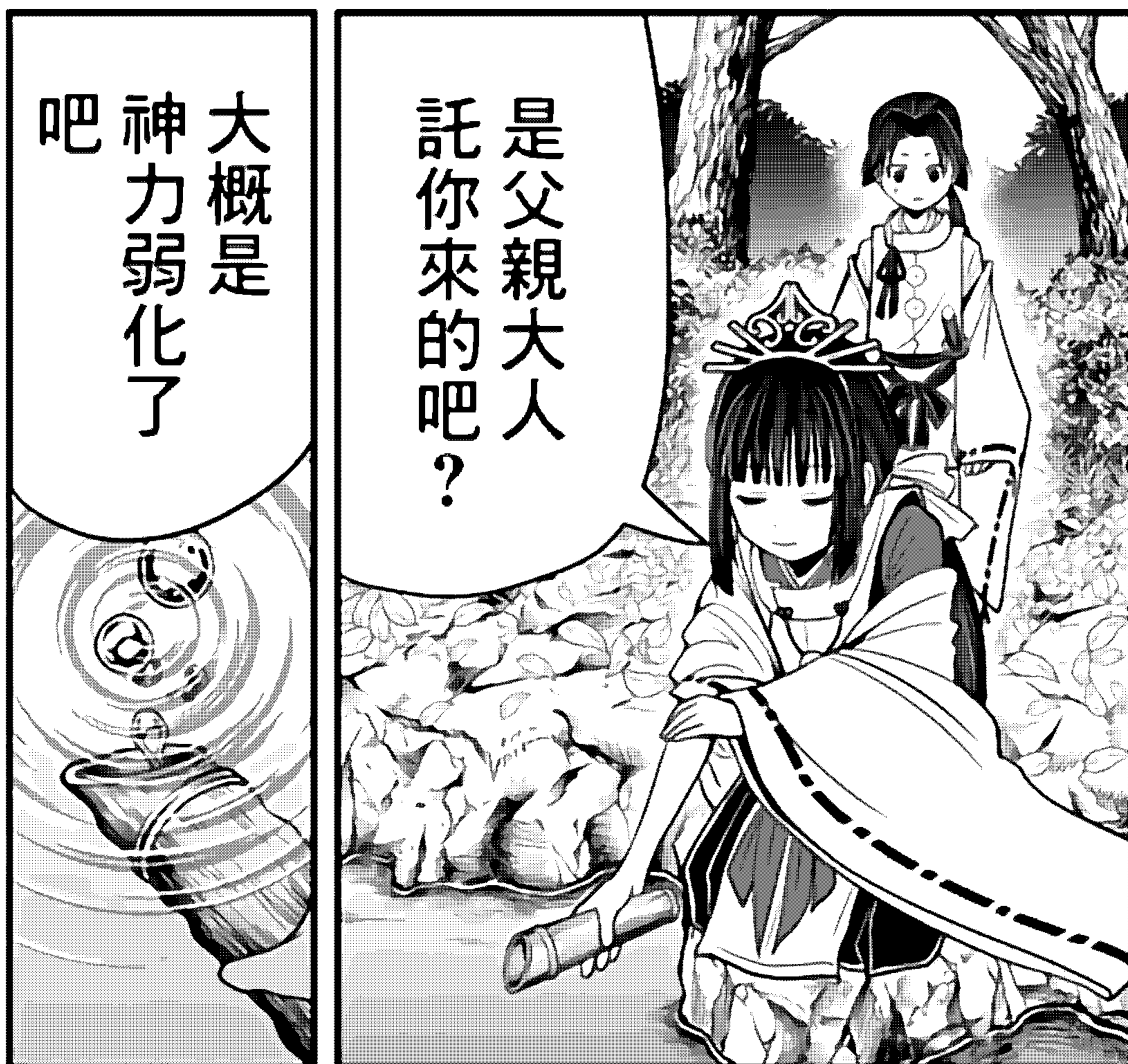
祈禱是
非常現實的
公益事業

為此他們傾注了
龐大的預算



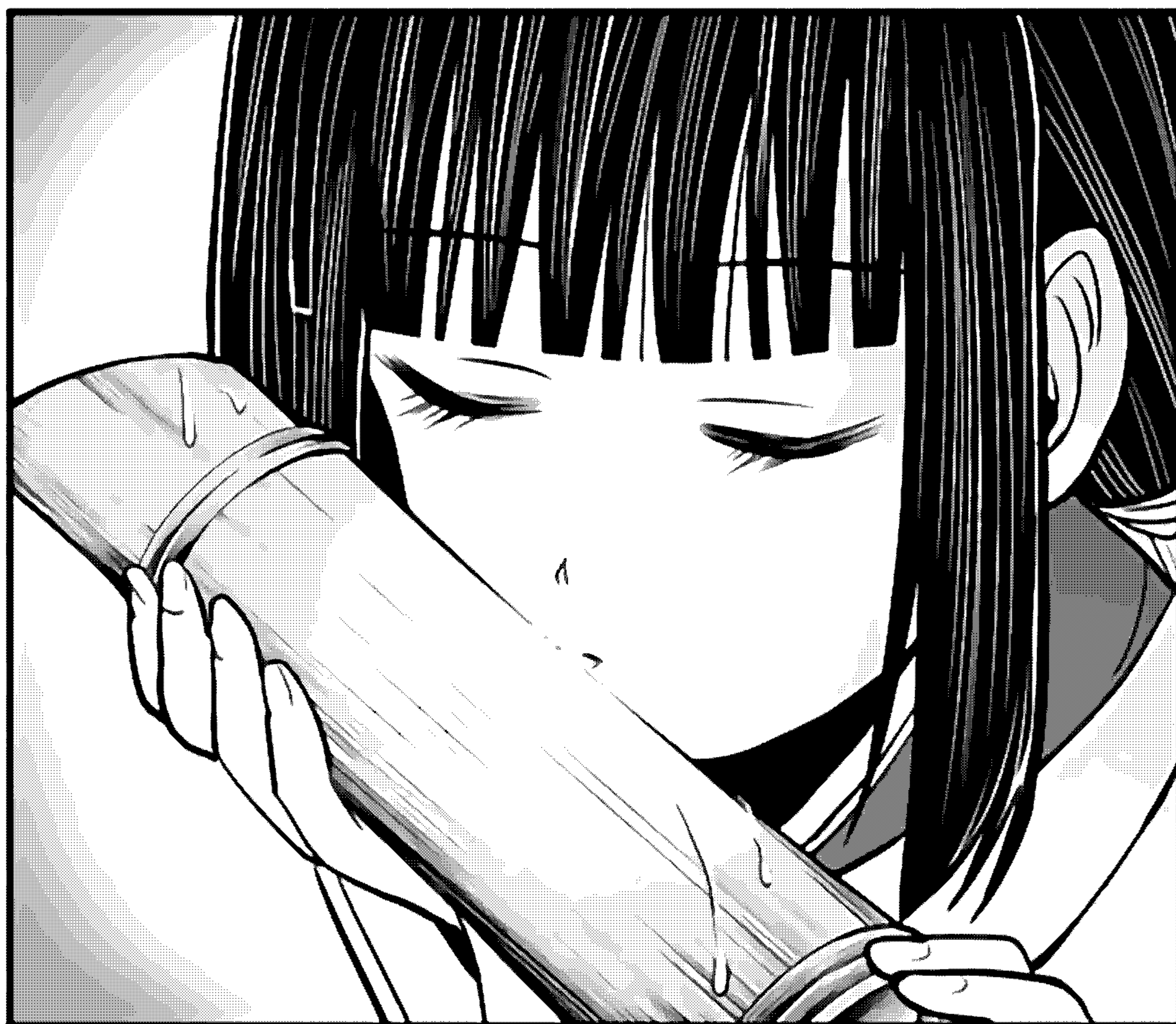
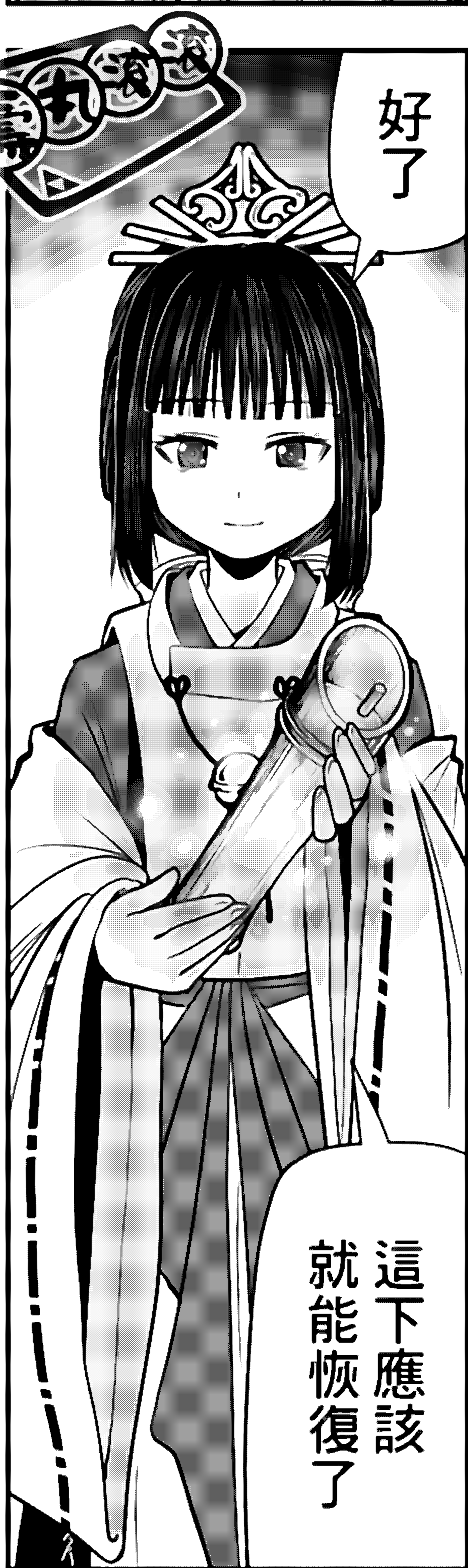
是父親大人
託你來的吧？

大概是
神力弱化了
吧



好了

這下應該
就能恢復了



窺見了
不可思議的
一隅

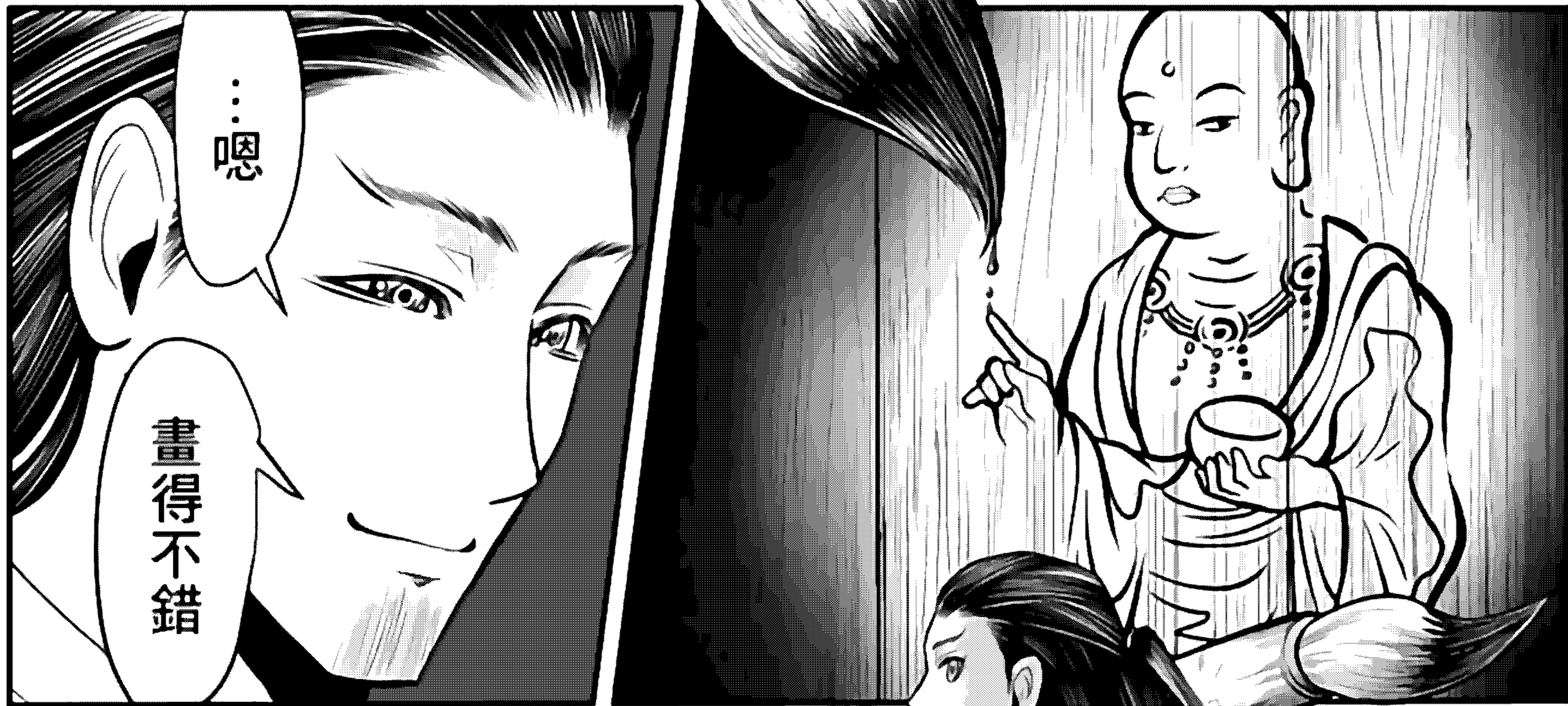
但一切都
朦朧不清

看起來都是些
無法影響現世的
微弱的存在

以及
栗

我也
並不了解你

賴重殿下
爲何要讓我
看這些



…
恩

畫得不錯



召來
直義

開啟描繪
天下的
征程吧

☆那朦朧的光、在京城同樣閃耀——。



少主溜得快

第24話

／本話完

解説上手の 若君

不思議な出来事が史実
として記録されていたと
は何事? 解説するぞ~!

解説 本郷和人

1960年 亀有生まれ。歴史の研究所で
ある東京大学史料編纂所の教授。おっちょ
こちょいテレビや雑誌にも出演する。

当時の不可思議について

問

当時は不可思議が事実
として扱われていたの?

平安時代は、真言密教がトップエリ
トたちに信仰されていました。この宗派
の儀式(加持祈祷というヤツ)では神秘
的な現象が数多く見られるとされ、だから
こそ貴い、と考えられていたのです。善い神
さまが実在するということとは、悪い鬼など
も当然いると想定されていました。

ところが平安末期の今様(庶民の歌謡)には、
こんなものがあります。「仏は常にいませども
うつつならぬぞあはれなる」。現代語訳すると

知識を落える快樂を
知った顔をしているな

死 蟻

「仏は常にい
らっしゃるけ
れど、現実に
そのお姿を見
ることができ
ないことが、
しみじみと尊
いことだ...」
どうです。こ
の歌、仏が
本当にいる
のかどうか、
人々が疑問を持ち始めているように思いませんか?

鎌倉時代の知識人である貴族には、きわめて合理的な精神をもった人
が現れます。たとえば徳大寺実基(太政大臣)という人。「上皇の離宮
を建てるため、地ならしをした。するとたくさん蛇が密集していた。
みな驚き、土地の神と思われる蛇が見つかりましたと上皇に申し上げた。
どうしたらよいか、と上皇が尋ねると、実基は「天皇が治める土地にす
む動物が、天皇に崇るなどありえない。捕まえてみな捨ててしまえ。」
と指示した。そうしたところ、祟りは全くなかった。」

後醍醐天皇の側近に日野資朝という優秀な貴族がいた。腰の曲がった
老僧を見て、西園寺内大臣が「ああ、貴い」と感動している様子を見て、
「年を取っているだけだろ」と言い放った。その上で、よぼよぼのむく犬
を内大臣邸に送りつけ「いやあ、貴く見えますなあ」と言った。

まあ、鎌倉時代にはこれくらいのリアリストが出現していま
した。これでは、お化けの出る幕はありません。そういうわけで、室
町時代になると、妖怪変化の話がなくなるのです。



↑いまの逃げ若は鎌倉時代の終わりですのでギリギリ
不思議なものは不思議なりに信じられていたのです。

卷末語

雖然我盡力
讓角色不說外來語
但還真沒找到
能代替「大變態」的詞：

順位 3 / 19
W J 2 0 2 1 N O 32

翻譯

我不做人了

校對

古々谷殘丘

嵌字

MOSA

壽丸滾滾漢化

首發微博

@混成連合會

歡迎加入漢化

測試群

648466051

監製

三十二

少主溜得快

第24話